

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道1号 しまだかなや 島田金谷バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県島田市野田 至：静岡県掛川市佐夜鹿			延長	10.4 km	
事業概要	<p>一般国道1号島田金谷バイパスは、静岡県島田市野田から掛川市佐夜鹿に至る延長10.4 kmのバイパスである。</p> <p>島田金谷バイパスの新大井川前後付近では、渋滞箇所が点在し、通勤時間帯を中心に渋滞が発生すると共に、並行する大井川橋においても混雑が発生しており、本事業では課題解決のために4車線化整備をすることで、島田市街地や大井川渡河部の交通渋滞の緩和、沿線地域における物流の効率化等への寄与を見込んでいる。</p>					
H24年度事業化	S45年度都市計画決定	H26年度用地着手	H26年度工事着手			
全体事業費	366億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約58%	供用済延長	0.0 km	
計画交通量	51,100台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.6 (残事業) 7.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 189/379億円 事業費：143/333億円 維持管理費：46/46億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,378/1,378億円 走行時間短縮便益：1,279/1,279億円 走行経費減少便益：89/89億円 交通事故減少便益：10/10億円	基準年	令和4年	
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量変動：B/C=3.3~4.0(交通量 ±10%) 【残事業】 B/C=6.5~8.0(交通量 ±10%)</p> <p>事業費変動：B/C=3.3~4.0(事業費 ±10%) B/C=6.8~7.9(事業費 ±10%)</p> <p>事業期間変動：B/C=3.5~3.7(事業期間±20%) B/C=7.0~7.4(事業期間±20%)</p>					
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等の旅行速度が改善される。 ・新幹線駅（JR掛川駅）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際拠点港湾（清水港）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接した日常活動圏中心都市間（島田市～掛川市）を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏中心都市（掛川市）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点開発プロジェクト（内陸フロンティアを拓く取組）の支援が期待される。 <p>⑤安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（藤枝市立総合病院）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送道路として位置づけられている。 ・緊急輸送道路（細江金谷線等）が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。 <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 					

関係する地方公共団体等の意見

静岡県知事の意見：

対応方針（原案）のとおり、事業の継続について、異存ありません。

本事業は、島田市野田から掛川市佐夜鹿に至る区間のバイパスの4車線化事業であり、慢性的な交通渋滞の緩和、新東名高速道路へのアクセス向上による物流活動への支援、医療施設への救急搬送時間の短縮などのストック効果が期待されております。さらに、本県が令和6年度供用に向け整備する金谷御前崎連絡道路と併せ、陸・海・空の交通ネットワークが強化されるなど、本県の発展に寄与する重要な事業です。

今後も、効果の早期発現が図られるよう、引き続き必要な予算の確保とコスト縮減の徹底に努め、事業を推進できるようお願いします。

また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き本県と十分な調整をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・島田金谷バイパス（野田IC～大代IC）では朝夕の通勤時間帯に、新大井川橋前後において渋滞が発生している。

・並行する県道島田岡部線の大井川橋においても、通勤時間帯を中心に渋滞が発生している。

・島田金谷バイパス沿線市町では、食料品、紙・パルプ製品等の製造品出荷額等が増加傾向にあり、島田金谷バイパスは沿線企業と新東名高速ICや近隣都市を繋ぎ、沿線地域の物流活動を支えている。

・島田市内から救急患者を24時間受け入れることができる第3次救急医療施設への緊急搬送時には、島田金谷バイパスの混雑状況に応じて、並行する県道島田岡部線を利用している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率約58%（令和4年3月末時点）、用地取得率は約95%（令和4年3月末時点）

・静岡県島田市野田から掛川市佐夜鹿間（延長10.4km）は、早期4車線開通に向けて調査・用地買収・工事を推進。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・旗指IC～大代IC間（延長4.3km）は、令和6年度に4車線開通、菊川ICは令和4年度内にフルインター化を予定。

施設の構造や工法の変更等

・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

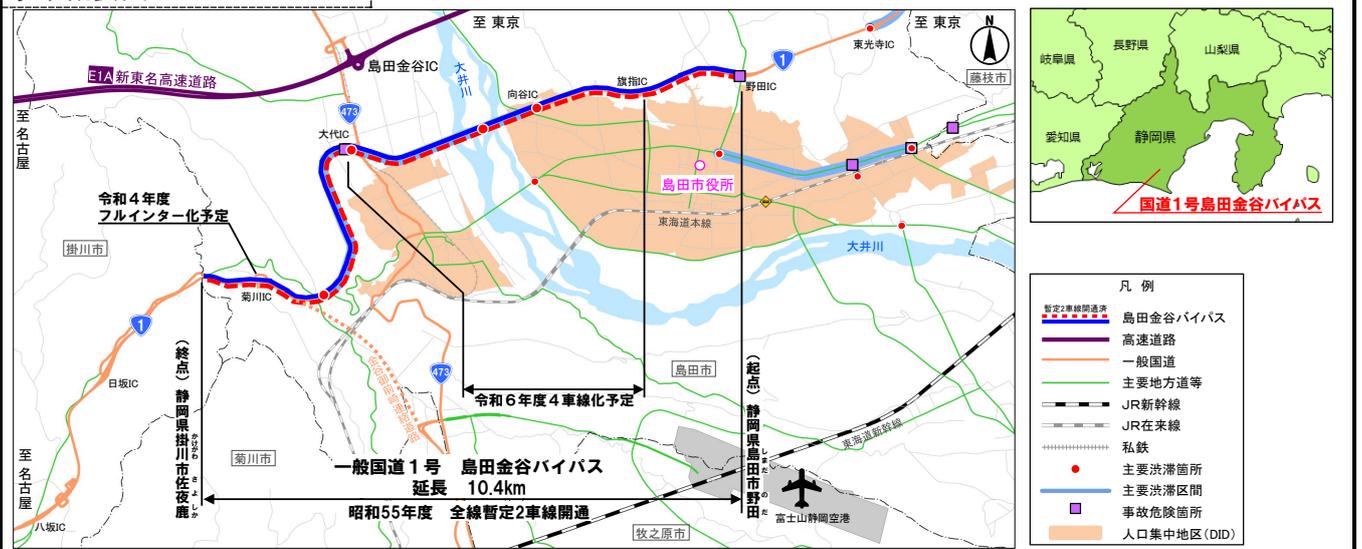
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。